

戦前の法で異常な解釈

憲法踏みこむ安倍政権

衆院予算委集中審議

藤野議員が追及

検事長定年延長問題

東京高検検事長の定年延長をめぐる、政府が国家公務員法の定年延長規定を検察官にも適用可能とした法解釈の変更を行った問題で、日本共産党の藤野保史議員は26日の衆院予算委員会で、検察官に特別の定年制度があるのは戦前の反省に立った日本国憲法に由来すると指摘し、勝手な法解釈など断じて許せないと迫りました。

↓論戦ハイライト② 関連の面

藤野氏は、1948年の国会で、刑事訴訟法の提案理由で当時の国務大臣が、戦前、刑事手続きで弾圧や人権侵害が起きたことを踏まえて憲法に詳細な刑事手続きでの人権保障規定が置かれたと説明したことを紹介。この憲法の精神を具体化するために検察庁法が制定されたと指摘し、同じ認識かと問いました。

議員法の定年延長が検察官にも適用可能とした法解釈を正当化したメロを同日の衆院予算委員会に提出したことを批判しました。藤野氏は、裁判所構成法は大日本帝国憲法下で三権分立が極めて不十分な法体系のもとにあった法律であり、持ち出せるはずがないと指摘しました。さらに、検察庁法を立法する際の理由について、当時の司法大臣が国会（1959）で述べたことと迫りました。

大幅な財政措置拡充を

新型コロナウイルス あまりに予算少ない

森雅子法相は「その見解に変わりのない」と答弁。藤野議員は政府が25日にまとめた新型コロナウイルス感染症対策の基本方針について「これだけ患者や国民、医療機関に要請するのであれば、ふさわしい財政措置が必要だ」と指摘し、予算案を修正して大幅に財政措置を拡充するよう求め

藤野議員は「その見解に変わりのない」と答弁。藤野議員は政府が25日にまとめた新型コロナウイルス感染症対策の基本方針について「これだけ患者や国民、医療機関に要請するのであれば、ふさわしい財政措置が必要だ」と指摘し、予算案を修正して大幅に財政措置を拡充するよう求め

また、藤野議員は「その見解に変わりのない」と答弁。藤野議員は政府が25日にまとめた新型コロナウイルス感染症対策の基本方針について「これだけ患者や国民、医療機関に要請するのであれば、ふさわしい財政措置が必要だ」と指摘し、予算案を修正して大幅に財政措置を拡充するよう求め

また、藤野議員は「その見解に変わりのない」と答弁。藤野議員は政府が25日にまとめた新型コロナウイルス感染症対策の基本方針について「これだけ患者や国民、医療機関に要請するのであれば、ふさわしい財政措置が必要だ」と指摘し、予算案を修正して大幅に財政措置を拡充するよう求め

さらに、藤野議員は「その見解に変わりのない」と答弁。藤野議員は政府が25日にまとめた新型コロナウイルス感染症対策の基本方針について「これだけ患者や国民、医療機関に要請するのであれば、ふさわしい財政措置が必要だ」と指摘し、予算案を修正して大幅に財政措置を拡充するよう求め

女信三首相は、2019年度予算の予備費103億円の財政措置で「必要な対策を実行していくことが可能だ」と答弁。藤野氏は「求められている対策からすれば、実行けとなる予算はあまりにも少ない」と批判し、抜本的な財政措置の拡充を求めました。



質問する藤野保史議員（26日、衆院予算委）

質問する藤野保史議員（26日、衆院予算委）

質問する藤野保史議員（26日、衆院予算委）

質問する藤野保史議員（26日、衆院予算委）

質問する藤野保史議員（26日、衆院予算委）